

日本人肺 MAC 症患者由来株と韓国人肺 MAC 症由来株の遺伝子的特徴の違い
 ○新美 政樹^{1,2}, 八木 哲也³, 高橋 弘泰^{1,2}, 打矢 恵一¹, 黒河 和広^{1,2},
 Jung Koh WON⁴, Jae Shin SUNG⁴, 市川 和哉², 稲垣 孝行^{1,2}, 森山 誠^{1,2},
 西森 敬⁵, 日比谷 健司⁶, 二改 俊章¹, 小川 賢二^{2,7} (1名城大薬, 2NHO東名古屋
 病院臨床研究部, 3名大病院中央感染制御部, 4Samsung Medical Center, Sungkyunkwan
 University School of Medicine, 5動衛研, 6琉球大院医, 7NHO東名古屋病院呼吸器科)

【目的】日本において *Mycobacterium avium* 感染症が増加傾向にある。*M. avium* 感染症は免疫不全患者への日和見感染が知られているが、近年、中高年女性において肺 *Mycobacterium avium* complex (MAC) 症が増加している。これらの要因が宿主側あるいは菌側に由来するのか、いまだ説明されていない。韓国でも MAC 症は増加傾向にあるが、*M. avium* の割合が少ない。このことから、何故、日本で *M. avium* の増加が大きいのか、日本で増加している *M. avium* の特徴を究明するため、本研究では韓国人肺 MAC 症由来株を用い、国別の *M. avium* の遺伝子的特徴を検討した。

【方法】菌株は韓国人肺 MAC 症由来株 (n=119)、日本人肺 MAC 症由来株 (n=76) を用い、VNTR 型別解析を行った。また、新規挿入配列 IS*Mav6*³ の保有状況を比較した。

【結果・考察】VNTR 型別解析により、クラスター形成を比較、検討した結果、完全ではないが日本人肺 MAC 症由来株が多いクラスターと韓国人肺 MAC 症由来株が多いクラスターが確認された。また、近年、報告された新規挿入配列 IS*Mav6* の保有状況を比較したところ、日本人肺 MAC 症由来株と韓国人肺 MAC 症由来株では有意な差はみられなかった。(日本人肺 MAC 症:75.0%, 韓国人肺 MAC 症:62.2%, $p < 0.063$) しかし、感染宿主からのインターフェロン γ の誘導に関与している遺伝子 *cfp29* の Shine-Dalgarno 配列に IS*Mav6* が挿入されている菌株については、固有のクラスターを形成し、日本人由来株が有意に多く保有していることがわかった(日本人肺 MAC 症:38.2%, 韓国人肺 MAC 症:10.1%, $p < 0.0001$)。これらのことから、日本、韓国において蔓延している *M. avium* が遺伝的に異なる可能性が考えられた。今後、他の国の *M. avium* の型別解析や病原因子の遺伝子解析を行うことにより、肺 MAC 症の病態や増加原因の解明を目指していきたい。